

大雪体験

福島県立郡山高等技術専門校の星先生より紹介を受けましたポリテクセンター山形の平沢です。星先生とは職業能力開発総合大学校の建築工学科の同期なのですが、いつもほんわかしていて、とにかく憎めない人柄で、今回の依頼も思わず引き受けてしまいました。卒業してからも時々連絡を取り、親しくさせていただいています。

私はポリテクセンター沖縄に3年、ポリテクカレッジ秋田に4年おりましたが、昨年の4月からポリテクセンター山形に転勤になり、現在指導員として8年目になります。雪国は秋田県で慣れていたつもりでしたが、今年は何十年ぶり的大雪で雪量がすさまじく、雪の大変さを改めて実感しました。自分のアパートの周りの雪かきはたいしたことはないのですが、妻の実家が山形市隣の山辺町というところにあり、農家の一軒家のため大雪で埋もれており、人手不足のため手伝いに行きましたが、その雪かき体験を今回のテーマにしたいと思います。

まずは家の周りに道を作らなければなりません。自分の身長よりも高く積もっている雪の壁を切り崩し、階段を作るところから作業は始まりました。積もっている雪のてっぺんまでの階段を作り終えたら、足で均しながら道を作っていきます。するといきなりズボット足の付け根まで身体が入ってしまうではありませんか。しかも周りの雪も柔らかく手をついて脱出しようとしても、底なし沼のようになかなかうまくいかない。やっと脱出したと思ったら足だけ抜けて長靴がない。雪かきが始まってわずか10分で相当体力を使ってしまった。

次に屋根の雪と壁に付いている雪を分離させる作業です。これをしないと屋根の雪が下に落ちていかに積もる一方になってしまいます。そして屋根に上がって雪下ろし。すべて下ろしてしまうと足元が滑ってしまうため、わざと20センチくらい残して下ろします。これは屋根をシャベルで傷つけるのを防止するためでもあります。そうこうしているうちにあっという間に2時間経ち、今日はここまでという事になりました。気が付くと服の中は汗でびしょり。近くの温泉に連れていってもらいそれはもう最高でした。

雪国ではこのように雪かきをしなければ、生活できません。へたをすれば家が潰れてしまいます。しかし地方では高齢化・核家族化のため人手が足らず、雪かき業者に依頼をする方が増えているそうです。特に今回のような大雪ともなると雪かき業者も予約がいっぱいでなかなか来てくれない。困った方はどこに頼めばよいかわからなくなり、大工さんに相談して雪かきをやってもらっているところも多いようです。今回の大雪を体験して、雪を対処できずに困っている高齢者の方がたくさんいるということを知りました。

さて、次のリレートークはポリテクセンター岡山の山本未来先生にお願いします。山本先生とは能開大建築工学科の同期で、同じ研究室でもありました。機構に入ってから研修等で一緒になったときは、研修後にあちこち遊びにいきました。

それでは、山本先生よろしく願いいたします。